

# ほたる草

発行  
大阪市天王寺区東高津町12-10  
大阪市ボランティア情報センター内  
福祉と住環境を考える会「ふくてっく」

発行責任者 代表：杉浦史郎  
TEL 06-6765-4041

「ふくてっく」は  
福祉+テクノロジーの造語です



9月定例学習会  
平成11年9月4日(土)  
佐藤 宣三郎氏  
(社福) 今川学園  
大和川園 園長



## 矛盾が多い要介護認定 介護保険の試行事業に関わって

来月4月から介護保険制度がスタートします。その試行事業に関わられた佐藤氏が、制度の内容と実態をお話してくださいました。制度の内容はみなさんある程度ご存知だと思いますので、ここではその問題点に触れてみたいと思います。要介護認定には調査員による基本調査があり、コンピュータ判定にかけられ、1次判定として介護区分が決められます。しかしそこにはさまざまな矛盾が生じます。例えば模擬調査に

よりまずと、家族が一生懸命介護しているほど、介護の実情が無視され「自立」と判定される方に傾くようです。生活状態、介護する人の有無はとり入れられていません。そして1度出されたコンピュータの判定を覆すのは困難です。しかし、調査員により介護度に差があり、保健婦は高く(重いと判定)、看護婦は低くなる傾向がありました。また家族介護の有無無しで判定に2、3の差が出ることもあります。その為、調査員が帰る前に調査表を見せてもらうことが大切だということです。

保険料の徴収についても疑問があるとのこと。現在国民保険料の滞納率は30%を超えています。さらに介護保険料が加わるわけですから。たして保険料の徴収がスムーズにいき、制度は運営できるのでしょうか。いずれ破綻するのではないのでしょうか。保険料の引き上げと徴収年齢の引き下げが

懸念されます。さらに指定業者の問題もあります。要介護の高齢者が悪徳業者をどうして見分けることができるのでしょうか。今までの福祉の範ちゅうであつても問題がありましたが、今度は金儲け目的で業者が参入してきます。指定業者を社会資源として育成することが必要ですが、不可能と思われま。またふくてっくも指定業者になつておかないと介護保険の対象にならないという人として認定されるのではないかとのことです。興味深いお話ばかりで、皆熱心に聞き入っており、質問も多く関心の高さがうかがえました。(記 和泉 秀子)

全国ボランティアフェスティバルみやぎ  
10月23、24日、どこまでも広がる緑の中に浮かぶ真っ白な建物、降り注ぐ



陽の光に眩しく映えて、その神々しさに圧倒されました。神話の国宮崎にふさわしい壮大で荘厳な雰囲気をもったこの「シーガイア」が、「全国ボランティアフェスティバルみやぎ」のメイン会場です。レーザーが飛び交うイメージビデオが始まり、一時は1200人の孤児を育てたボランティアの祖と言われる石井十次のプロフィールがし出され、そこへ突然歌手であり「ねむの木学園」の宮城まり子氏が登場。石井十次のボランティア精神をたたえ、こんなに多くの

## 部会報告

大工道具・製作部会  
(財)車輛競技公益資金  
記念財団の助成金により大工道具を購入しましたのでお知らせします。  
発電機1・充電インパクトドライバー2・振動ドリル2・電動ハンマー1・ベルトサンダー卓上型1・大工道具セット3・ドリルスタンド、ドリルブレーキ付1・ディスクグラインタンク2・集塵機1・カンナ1・丸ノコ1。多機能工の育成に役立つ



購入した大工道具一式

今林の里建設支援部会  
10月の定例会では、大和川園からの報告として、まもなく新施設の職員募集が開始され大和川園からも数人の職員が合流する予定であること、施設運営の詳細なプロ

機械が揃いました。製作時には皆様の参加をお待ちしています。(記 新開・後藤)  
パソコン部会  
ふくてっくの活動を記録に残すことを提案し、「活動記録カード」を作成しました。(使用ソフト ファイルメーカー) 10月の定例会に配布しましたので、記入をお願いします。  
デジタルの画像処理をATC中北事務所にて行うこととし、使用説明をしました。清水さん中心に初期診断等で活用されています。(記 和泉秀子)

グラムはその後に策定される事になるうとの事。当会から備品調達の素案が提示され、意見交換がなされた。かねてから懸案の陶板タイルについては10月7日、地元との連絡協議会において、中北より近隣関係者、大阪市民生局そして今川学園関係者に披露され、好意的に受け止められている。いよいよ12月に作成に取り組み段取りとなった。



9月の定例会で外壁タイルの見本を見ながら説明

現場は、10月末に6階躯体までの打設を完了し、主要な設備機器・配管の敷設、サッシの取り付けが始まっている。来年2月末の竣工をめざして予定りの進捗である。(記 中北清)

## 活動懇談会 報告

9月の定例懇談会で初期診断料を徴収する事の是非が話題となり、これが引き金となつて設計作業をカウソントしない現行の費用体系への疑問が再燃した。生活困窮者への特な配慮はどうすべきか、会の活動でも経費の配分があるものとそうでない物のアンバランスの実状など有償ボランティア団体としての根幹的な問題であるので、日を改めて集中討議する事になった。

そのほか、各部会の活動経費として2万円づつを2月定例会で配布する事が提案された。  
9月25日に前述の問題についての討議が行われた。出席は8名とやや少なく、重要な決定をするには不十分であったが、この問題は要するに当会がいかなるボランティア団体であるのか、あるいはNPOをめざして組織改革して行くのか、という基本的な重要課題であり、時間をかけて議論を重ねなければならぬ事と、慣例

に流されてやや曖昧になっているコスト基準の見直しが急務であることが確認された。  
この時、初期診断料を初期診断者が直接受け取る事を改め、会として受領して経費加算する事が提案されている。  
10月の定例懇談会で、以上の経緯が報告されたが、なお結論を見いだすには至らず、とにかく各部会で費用根拠を正確に見直す事を宿題とした。  
またかねてよりボランティア情報センターには過大な負担をお願いしてきたが、各部会の整備がなされた今、それぞれの部会および事務局で適切に対処するべくその具体的な責任分担が討議された。(記 中北清)

秋の木工教室シーズンたけなわとなりました。ふくてっくの木工教室部会は大繁盛。メンバーの皆さん、お疲れさまです。  
広報部会は変わりありませんが、パソコン部会は活動内容も広がり、ますます充実したものになりつつあります。他の部会はいかがでしょう。  
ほたる草では広く原稿を募集しています。部会の報告はもちろん、なんでも結構ですので、みなさん原稿をお寄せ下さい。(和泉)

定例会のお知らせ  
12月  
日時 12月4日(土) 午後1時 30分〜5時  
場所 阿倍野市民学習センター 第2会議室  
内容 豊かな老後を  
講師 社会福祉法人 水仙福祉会 水仙の家  
園長 禪定 正世氏

1月  
日時 1月8日(土) 午後1時 30分〜5時  
場所 大阪市社会福祉センター3階(予定)  
内容 未定





**府立特養介護老人ホーム 四条畷荘**

8月に四条畷荘職員のM氏より、当施設の階段手スリの製作と取り付けの相談がありました。電話、FAXにてあらかじめ具体的な内容を把握し、現地を訪問しました。

当初、1階階段の手スリ子取り付け部分の溶接改修の話でしたが、築20年の施設で他の廊下手スリも見て欲しいとの依頼があり、全館の手スリをチェックすることになりました。建設時の工事不良及び手スリ取り付け用の部材が細すぎることもあり、計30数ヶ所の危険箇所が見つかりま



した。そのほとんどが溶接を伴う工事のため、ふくつく登録業者に全て依頼し、9月に全改修完了の報告を受けました。

(記 畑 俊治)

### 事例報告

まず生活協同組合コープこうべ 福祉・環境活動部 福祉チーム課長 森省吾氏より、コープこうべの説明がありました。コープこうべでは組合員が互いのくらしをよくするためのさまざまな活動が展開されており、自

### 見て触って使って自分で決める 「コープこうべ」「はーとらんど」見学会

10月定期学習会  
平成二年10月2日(土)  
見学会  
コープこうべ 福祉介護センター「はーとらんど」

今回は神戸市東灘区にある「はーとらんど」の見学会を行いました。「はーとらんど」は日本最大級の福祉介護用品売り場をはじめ、在宅介護・福祉に関するモノ・情報・サービスが揃う介護センターとして、1996年にオープンしました。



主的なボランティア活動や、事業としての福祉活動が行われています。主なものとして、「コープくらしの助け合いの会」では有償の家事援助をしており、活動の年目という事です。「コープふれあい食事の会」は食事をして高齢者とのふれあいを深めることを目的とし、月1〜2回の会食または配食を行い、「コープそよかぜ便」は毎日の夕食を高齢者宅に届ける生活援助型の食事サービスを行っています。いずれも収支が合わないという事です、頑張っていることですが、継続してまいります。「はーとらんど」は見て、触って、使って、自分で決められるようになっており、1500アイテムの福祉介護用品が展示されています。相談コーナーでは日に30件ほどの相談があるそうで、シニアアドバイザーが福祉全体の相談をうけ、相談の中から7品目の開発商品も生まれたとの事です。

次にコープリビング甲南



吉田氏より売り場の説明を受ける



車イスに試乗もできる

福祉介護センター「はーとらんど」チーフ 吉田幸治氏より売り場の説明がありました。高齢者とは何歳でしょうか?女性、男性、年齢、実感としては「何歳で高齢者」といった感じだそうです。一番よく出る商品は歩行支援具、次に車イス、ベッドで、食事関連(スプーン等)はほとんど出ないそうです。商品になっていないものは価格が高く、自分で工夫して作れるものもあるので積極的に売ることもしないそうです。金額ベースで一番出ているのは介護ベッ

ドで、寝たきりになつていなくても買い替えとして買われる方もあるそうです。店舗には車イス専用の駐車スペースも設けられ、売り場は広々としており、路も広く、リビング用品売り場の一角にあるので、気軽

に立ち寄りやすいです。助け合いの精神に基づき、お客さま側に立った販売姿勢に感じました。一の介護ショップにも少しはこの心があればと感じました。

(記 和泉 秀子)

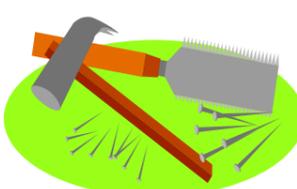
### 工夫しながら見事完成 焼き杉プランター作り

10月20日(水)北區民センターで「ふれあい広場」があり、日曜大工講座「焼き杉プランター作り」

のお手伝いに参加しました。見本の側は三日月の切り抜きでしたが、ここは好きな形にやってみようという事になりました。説明



(記 岩元 百合子)



後、同じ月になったり扇やチューリップ等の形になったりと夫々の工夫がみられました。材料は予め切つて焼いてありますが、切り抜き部分の形を鉛筆で書いて糸ノコで切り抜き、もう一度焼いていよいよクギ打ちで出来上がりです。

主催者側のボランティアの女性が多く、参加者も人は全員見事完成し、皆さんうれしそうに大事に持ち帰っていました。気軽に取組んでとてもよかったです。

昇り人形に興味深々



親子で木工を楽しんでいます



### ふくてつくテントも真新しく 子ども木工教室は満杯状態

10月24日(日)、朝はいつになく冷えましたが、昼間は抜けるような青空のもと、「ボランティア・市民活動フェスティバルinおおさか」が開催されました。

大阪城公園太陽の広場が会場、大変盛大で5万人の参加とのことでした。ふくてつくは「体験・遊びゾーン」での子ども木工教室と「活

動紹介・相談ゾーン」での住宅改造相談の参加でした。

子ども木工教室では真新しいふくてつくのテントを2張、住まいを考えるアドバ

と、ころ素直に従い、しばらくしてから木工を始めました。

平松さん力作の昇り人形の見本はいつも大盛況。さわつてはそのまま立ち去る人、自分で作っていきたい人、中には嫌いな人の顔を作つてやろうかなあ

での子ども木工教室と「活

動紹介・相談ゾーン」での住宅改造相談の参加でした。

子ども木工教室では真新しいふくてつくのテントを2張、住まいを考えるアドバ



住宅改造相談に訪れる人もちらほら

と云って立ち去った人もいて、人間の心理状況が少しみえたようでした。

今回は焼き杉で出来たプランターを販売。色々な人の心をとらえていましたが、2個は定価で(八百円)、3個は三百円安くして最後に売れました。

住宅改造相談コーナーでは中北さんがひとりぼっちで店番。訪れる人も少なく、残念でした。

これからの子ども木工教室は……!

どんな木工教室を行うかはこちらの企画次第。子どもにも喜ばれるものを皆で考えましょう。

(記 光川 隼子)